東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

神経内科ローテーション型コース（大森）

募集定員

若干名

コースの特徴

神経内科医として臨床、研究両方面での人材育成を目標としている。その教育の一旦として、神経内科に所属した医師においては認定医・専門医の資格としては、内科学会認定医を取得し、その後内科学会専門医・神経内科学会専門医を取得する。

また学位については大学院に入って甲種を取得する方法（この場合も希望により臨床・研究とも行えます。）と臨床に並行して研究を行い、乙種を取得する方法があります。こうした認定医・専門医・学位の取得については、それぞれの医師により状況・目標が異なるのでプログラム指導責任者とともに管理運営責任者を設け、それぞれの医師にあわせた研修プログラムをコーディネイトする。

診療においては上級医とともに病棟を担当し、その指導の下に神経学的診察方法・神経内科疾患の診断プロセス・検査手技・治療法の選択と実施などの経験を積んで臨床力を高めていく。

本ローテーションコースでは、まず、内科全般を十分な期間をかけてローテーションすることにより、一般内科に必要な経験と臨床能力を身につけ、日本内科学会認定内科医取得を中間目標とします。後期研修 1・2 年目に、神経内科を含む大森病院の各内科を半年単位で計 4 ヶ所ローテーションし、前期研修で不十分であった内科分野を経験･学習し、同時に認定内科医取得のための不足症例を満たして頂きます。3 年目以降は神経内科に戻り、神経内科学会専門医を始めとした各専門医の取得にも努めつつ、学術活動の基本を開始して頂きます。

研修カリキュラム

１～２年目

病院名・診療科

東邦大学医療センター大森病院神経内科・大学院を含む内科各科・総合診療科

研修期間

２年間(半年単位)

習得内容

1. 内科疾患に対して病歴を正しく聴取し、身体所見を正しくとり、簡単な検査を行えるようになり、それらに基づいて的確な鑑別診断を行えるようになる。
2. さらにその診断に基づいて的確な治療を行える。
3. 内科認定医・専門医として必要な臨床経験を積む。
4. 内科地方会で症例を発表する。

３年目

病院名・診療科

東邦大学医療センター大森病院 神経内科・大学院

又は関連施設出向

研修期間

１年間

習得内容

1. 内科疾患に対して病歴を正しく聴取し、身体所見を正しくとり、簡単な検査を行えるようになり、それらに基づいて的確な鑑別診断を行えるようになる。
2. さらにその診断に基づいて的確な治療を行える。
3. 内科認定医・専門医として必要な臨床経験を積む。
4. 内科地方会で症例を発表する。

４年目

病院名・診療科

①順天堂大学病院 神経放射線（放射線科）

②残りの期間は大学にて研修

研修期間

①３ヶ月

習得内容

1. 神経内科疾患に対して病歴を正しく聴取し、神経所見を正しくとり、神経関連の検査を行えるようになり、それらに基づいて的確な鑑別診断を行えるようになる。
2. さらにその診断に基づいて的確な治療を行える。
3. 日本神経学会の地方会・総会で発表する。
4. 画像所見を正しく読めるようになる。病理学について勉強し各疾患の病態を確認する。

５年目

病院名・診療科

東邦大学医療センター大森病院 神経内科・大学院

又は関連施設出向

研修期間

１～２年

習得内容

1. 神経内科専門医として必要な臨床経験を積む。
2. 日本神経学会の地方会・総会で発表する。
3. ７年目以降内科専門医・神経内科専門医取得をめざす。
4. 臨床研究・実験などは適時行い、大学院・夜間大学院・レジデントといった身分によって学位取得をめざす。また、神経放射線・神経病理・慢性の神経疾患の診療などを目的に院外ローテーションを行います。

専門医の取得

週間予定

症例検討会

○毎週月曜日；一般症例検討会、抄読会
入院中の症例についての診断・治療方針などについて討議し、文献的考察を行っています。
また毎週 1～2 名で神経内科学に関する外国論文の抄読会を行っています。
○毎週土曜日；新患症例検討会
その週の新患症例について初期情報の確認・検査計画の検討・治療方針の考察を行っています。
院内関連部門および院外との合同症例検討会

教育関連病院・施設

教育関連施設（後期臨床研修３年目）（４年目の一部）
　済生会横浜市東部病院
　川崎市立川崎病院
　国家公務員共済組合連合会　三宿病院
教育関連施設（卒後５年以降）
　聖マリアンナ大学東横病院脳卒中センター
　国家公務員共済組合連合会　三宿病院
　東芝病院
　その他、国立循環器センター・秋田県立脳血管研究センター
　順天堂大学病院放射線科・国立精神神経センターなど

コースの実績

大森病院神経内科では、在籍 7 年以上の 15 名中 14 名（93%）が学位を取得しており、神経内科専門医は在籍 7 年以上の 15 名中全員が資格を取得しています。内科専門医は 2 名取得しています。

コースの指導状況

後期研修（3 年目～4 年目）

内科医としての幅広い診療を行うため、3 年目は、東邦大学医療センター大森病院総合診療科・済生会横浜市東部病院・国家公務員共済組合連合会三宿病院・川崎市民病院などにおいて一般内科として以下を目標に研修を行います（希望によって 4 年目も続行する場合もあります)。

1. 内科疾患に対して病歴を正しく聴取し、身体所見を正しくとり、簡単な検査を行えるようになり、それらに基づいて的確な鑑別診断を行えるようになる。
2. さらにその診断に基づいて的確な治療を行える。
3. 内科認定医・専門医として必要な臨床経験を積む。
4. 内科地方会で症例を発表する。
5. 4 年目以降内科認定医取得をめざす。

卒後 5～7 年目

神経内科医としての診療を行うため、東邦大学医療センター大森病院神経内科・東芝病院・東京労災病院・関東労災病院・三宿病院などにおいて以下を目標に臨床にあたります。

1. 神経内科疾患に対して病歴を正しく聴取し、神経所見を正しくとり、神経関連の検査を行えるようになり、それらに基づいて的確な鑑別診断を行えるようになる。
2. さらにその診断に基づいて的確な治療を行える。

3. 神経内科専門医として必要な臨床経験を積む。
4. 日本神経学会の地方会・総会で発表する。
5. 7 年目以降内科専門医・神経内科専門医取得をめざす。
6. 臨床研究・実験などは適時行い、大学院・夜間大学院・レジデントといった身分によって学位取得をめざす。また、神経放射線・神経病理・慢性の神経疾患の診療などを目的に院外ローテーションを行います。

学位・大学院と海外留学について

大学院希望者は 3 年目から積極的に受け入れており、その後 4 年間いずれかの研究班に属し、指導者からテーマをうけて学位の取得に努めることになります。この場合は基本的には 4 年間大森病院内で臨床・研究を行うことになります。

海外留学に関しても当科では積極的に取り組んでおり、コロンビア大学・トマスジェファーソン大学・ウイスコンシン大学・ベイラー医科大学・パンパシフィックＡＬＳセンターなどへの留学のルートを確保しています。基本的には学位・認定医を取得以降各自の状況に応じて 1～3 年間の留学が可能です。また、国内研究施設への国内留学も積極的に行っております。

評価及び修了認定

年度末にはその年及び累計の症例数（疾患別）の確認を行い内科学会認定医・専門医および神経内科学会専門医資格を取得するのに必要な診療経験と学会活動をしているか、プログラム指導責任者と管理運営責任者が評価し、翌年の方針について各自へとフィードバックします。内科学会認定医資格を取得することによって後期の内科医としての修了認定とします。さらには日本神経内科学会専門医資格を取得することにより、神経内科としての修了認定としています。以後は当科スタッフとしてより臨床・研究に研鑽し、後進の育成にも努めていくことになります。

認定医・専門医の取得等

学会等名	日本神経学会、日本脳卒中学会、日本内科学会、日本頭痛学会、日本認知症学会
資格名	日本神経学会専門医、日本内科学会認定医・専門医、日本脳卒中学会専門医、日本認知症学会専門医
資格要件	日本内科学会認定医を取得し日本神経学会に所属し 5 年目以上で受験資格あり。
専門資格の概要	